

OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第36号

創部100周年に向けて、記念誌編集スタート

—OB会を簡単に振り返って—

OB会副会長 41回生

相羽 克治

OB会報は今回で第36号です。

「湘南サッカー部OB会」は会報発行の前年、昭和56年（1981年）に組織を整えて正式に発足しました。それまでは、湘南サッカーの礎であった岩淵二郎氏（2回）が、蹴球祭開催、現役指導のOBコーチ手配、OBチームの結成、現役への寄付など、全て中心となり纏められていました。昭和55年、岩淵氏が逝去され、天野武一氏（1回・初代会長）、安保隆文氏（16回）を中心に「偲ぶ会」が盛大に開催され、これを機に昭和56年の蹴球祭でOB会の正式発足となりました。その後、会長は22回桑田孝氏、27回柳川明信氏、36回井上孝氏、37回牧村英樹氏と引き継がれ、現在は39回小泉親昂氏が務めています。発足時に約束をした、1月初旬の蹴球祭、8月のOB会、12月の会報発行は現在まで、形は変化しながらも続けられています。8月のOB会では4年前から「OBによる講演会」も行っています。

〈OBコーチ〉

昭和30年サッカー専門の先生が赴任・顧問となり、OBは大学生を中心に時間を作って交代で指導を手伝う形になりましたが、顧問不在の時期（平成8年から2年間）をきっかけに、須藤和重氏（63回）が4年間OBコーチを務めました。現在は部員数が多く「大学生コーチ」が顧問の手伝いをしています。

〈OBサッカーチーム〉

昭和10年代に「湘南OBチーム」が結成され、戦前・戦後通じて各種大会に参加。昭和30年代からは若手を中心に「湘南クラブ」「アンテロップス」「湘南ボールクラブ」などが結成され活動。昭和53年には40代のチーム「湘南ペガサス」も結成されました。現在では若手チーム「湘南トトカルチョ」はじめ、40代から70代のチームまで組織され、それぞれ活発に活動をしています。またビーチサッカーチーム「湘南スプレッド」は結成10年が経ちましたが、湘南OB

Bが中心で頑張っています。
〈スペイン遠征〉

平成16年3月、当時顧問の清水先生のご尽力により、OB会主催（現在は学校が共催）で第1回スペイン遠征を催行。その後隔年で行い、平成30年3月で8回目をむかえますが、OBは団長を含め毎回2〜4名同行しています。

〈OB会、私の思い出を少し〉

・OB会発足2年後、久し振りに現役が関東大会に出場。OB会を中心に声を掛け合って応援に駒沢競技場に集まりました。

・昭和64年正月の全国選手権大会に23年ぶりに出場。OB会として盛大な壮行会を開催し多数のOBが参加。記念テレホンカードを作成しました。

・桑田会長時代、サッカーのプレーをしないOBも集まれるようにと講演会を企画。会長のご尽力により、日本サッカー界の重鎮でいらした、岡野俊一郎氏（元日本代表チーム監督、元日本サッカー協会会長）を招いて開催しました。

●創部100周年記念誌

今までに2冊の記念誌を発行しています。昭和56年の「湘南サッカー半世を経て〜岩淵二郎追悼記念〜」

と平成元年の「湘南サッカー実践譜・特集鈴木中先生の28年間」です。また、80周年では会報で特集を組み、90周年では小冊子を作りました。

創部100周年の記念誌は今までの集大成と考え、OB会幹事を中心に各世代からの参加を得て編集委員会を作り、作業が春からスタートしました。概要は①本文、②人物伝、

③年表、④写真の構成と考えています。①本文は全体を年代ごとに7章に分け8章は「これから」について書きます。これは文筆家の植松二郎氏(41回)が執筆し、「読み物」としても面白く、興味を惹くような形にするつもりです。執筆の土台となる資料・情報・聞き取りなどを手分けして作業します。1〜3章(創部(昭和36年)については、関佳史事務局長(48回)の多大な努力により、多くの資料の収集・整理が行われ、それを基に植松氏が執筆を始めています。4章以降も各委員が資料集めに努めています。②人物伝は、各方面で活躍されたOBの方50人程を紹介します。人選が難しい点もありますが編集委員で検討を重ねます。③年表は、湘南サッカーの歴史、日本・世界のサッカーの話題、社会・世相など3つに分け表にします。④写真

は選定、入れ方など今後の検討です。2021年4月が創部100周年となりますが、記念誌発行は2020年度中と考えています。今後も、資料・情報など皆様にご協力いただくことがあると思います。よろしくお願いたします。また、ご意見・ご要望などございましたら事務局までご連絡ください。



●7号 昭和64年 6ページ
全国大会出場



●3号 昭和59年 4ページ
モノクロ OB寄稿が始まる。



●1号(創刊号) 昭和57年
4ページ モノクロ



●33号 平成26年 カラー化に



●20号 平成13年 26ページ
80周年記念特集



●16号 平成9年 8ページ



●10号 平成4年 8ページに

相羽克治先輩から、その経緯を、湘南サッカー部の後進に向けて書けと求められた。最初に触れなければならぬのは、35歳の時に、鎌倉材木座の富士和教会で神の使者を知ったことだ。こう書く、大病や貧苦の不幸に出会って、新興宗教にはまったのだろうと考えるかもしれない。だが、そうではない。

私は49回卒業の62歳。2009年、53歳の時に、北海道の道東海岸に移住、太平洋に面した高台に暮らして、湖水地方牧場を経営し、海岸草原のブラウンスイスと、湿原のイタリア水牛の2系統酪農による、チーズやヨーグルトの乳製品を製造・出荷している。一方で、社団法人湿原研究所の代表理事を務め、地域の3自治体、ロケット事業企業、ジビエ企業と連携して、自然博物館設立準備中だ。かつてなく、充実した日々を送っている。

特別寄稿

自然の詞・自然の規範

49回生 白井 隆

私は20代にドキュメンタリストとして内外の取材に明け暮れたころ、新興宗教の取材をしたことがあるが、富士和教会とはそうしたものであるが、本業の都市計画家として、昨年まで、中国禅宗第一位の径山萬壽寺復興計画に、監修者として従事して、旧来の宗教にも比較的深く触れてきたが、それも違う。

「胸に手を当ててよく考えてみなさい」とは、子供を諭す時に親が言う言葉。内心の話だが、私は子供のころ、いつも胸に問いかけて様々な言葉を見つけた。そこで得た言葉が、世界を支配していることを知っていたのだが、自我が発達する思春期には、その言葉が沈黙してしまった。「小さいころは神様がいて」とは歌の詩だけれど、本当にそうだと思いつながら、それ以後もいつも、世界を支配しているはずの言葉の出自を探していた。万巻の書に触れ、博物館美術館劇場に足を運んだが、その言葉は見いだせなかった。富士和教会はその答えだったのだ。

神の使者は、神の詞を伝えていたが、変節を積み重ねた人が、頑固な自我にがんじがらめになっている心を、自然な道理の世界に導きだす指導をする。人がそれを求めて、謙虚

な心を取り戻すことが絶対条件だが。そんな人は、おそらく、人類史上存在しなかっただろう。私は大いに感服してご指導を受けた。広く社会を知り、しかし、まだ自己が固まりきつてはいない30代半ばの体験として、それは、格別に素晴らしい。本当に恵まれていたと思う。私の今の人生は、そこから始まったのだ。



私は、慶應義塾の経済を出て最初に、縁があつて映画「戦場のメリークリスマス」の美術担当ラインプロデューサーの仕事についた。それは、人が生きる物語の舞台を作る、視覚

的にはその風景を作る仕事だ。

フジテレビバラエティの放送作家など、20代にはいろいろな仕事を引き受けて遊んだけれど、ドキュメンタリストとしてアメリカの会社から「日本の肖像」という4時間ドキュメンタリー演出の依頼を受けて、2年間を費やした。試写を見た、会社の担当者として全権を握るエグゼクティブプロデューサーが、日本はお巡りさんが子供たちとお遊戯をして遊ぶ国だという映像を入れると無理難題を押し付けて来て、万事休した。若者に年収4千万円を出すビジネスの内情はこんなものだった。「戦場のメリークリスマス」、「ラストエンペラー」などをプロデュースした英国人のジェレミー・トーマスは、私と年齢もあまり変わらない若者で、ハリウッドでお茶を飲みながら愚痴をこぼした。すると、「ユリイカ」という映画をハリウッドと共同製作した時に、同じことがあつたと話してくれた。アメリカ人プロデューサーの注文を、監督のニコラス・ローグが受け入れられず、編集権を握るハリウッドがずたずたに改変した。ニコラス・ローグはその後、映画を作れなくなってしまった。編集権は人格権なのだ。アメリカはいつもこ

んな感じた、と。アメリカは散々だった。

ちょうどノーベル賞を受賞して脚光を浴びているイシグロカズオ原作「浮世の画家」の映画化を監督しないかという誘いに乗って、英国に移り住んだ。「日本の肖像」は完成して全米に放映されたが、私は見られなかった。アメリカに住む心ある人々は私を慰めたけれど、心無い人々は「とても素晴らしい作品だ」とお追従を言った。ロンドンでは、早朝から脚本を書き始めて、疲れ果てる午後には、町に出て遊んだ。アメリカでは日々は闘いだったが、ロンドンでは、生活を楽しむ、癒される時間を知った。アメリカの仕事は金を残したから、家内の白井温紀は、英国で一番授業料の高いカレッジを選んだ。ガーデンデザインを学んだ。白井温紀は、90年代から21世紀初頭のガーデンニングブームに乗り、NHKの番組の常連として20年くらいはその仕事を楽しんだ。

英国では、少々規模が大きな開発計画は、ランドスケープアーキテクトがランドデザインをつかさどり、インテリアデザイナー、建築デザイナー、ガーデンデザイナーなど、様々

なデザイナーを指名して細部の設計を分担する。建築は、近代そのものだ。工学と美学の語法で、世界のすべての課題に立ち向かう。膨大なお金が動くから脚光を浴びる。フランス・ベーコンは、人間が自然を支配するのだと書いた。西洋で困惑したのは、人が自然を支配していると、誰もが信じて疑わないことだ。私の内心の言葉によれば、この世を支配しているのは自然の力だった。フランスの新哲学派の若者たちが、ノイローゼになりながら、ロゴス中心主義に回し蹴りを！と語っていたことを、いつも思い出した。ロンドンでは、そんなことを、ふわふわと考えていた。

「浮世の画家」の脚本が完成して、プロデューサーが資金調達に動き始めたころ、日本に帰り、富士和教会の神の使者を知った。私にとつては、他の何よりも、その出会いの意味が大きかった。考え方の立て直しをする過程で、「自然が神です」という神の詞を知った。決定打だ。そうか、やはりそうだったのだ・・・自然が世界を支配している。

今が何時か分からない、いつ夜が明けて日が暮れたのか分からないよ



うな、サウンドステージや編集室から逃れて、ランドスケープの仕事に軸足を移すのは当然の流れだった。40代になると仕事は山のようにあった。学校を出て最初についた「人が生きる物語の風景を作る仕事」を、スクリーンの中ではなく、現実の世の中でつかさどる。

建築士の資格はとったけれど、工学の言語だけで世界を構築する思想には与ることができない。自然生態学に軸足を置いた都市計画、庭園都市計画と銘打って仕事を請けた。植物生態学者宮脇昭先生が、白井さんの仕事ならどこにでも行くと

て下さって、森を作りながら、風景造形を模索した。共同講演会があった、私が前座を務めた。「私は、トラクタで畑を起こすと、その瞬間から数百年後の自然植生林に向けて、大地の修復が開始されるのを感じる。地上の出来事は、すべて、その大きな力の上で起きていることではないか。狂気や悪は、長い時間の中で淘汰されるが、その力と同じ力なのではないだろうか・・・」と述べた。帰りの車の中で宮脇先生は、「本当だ、まったくその通りだ・・・」とため息をつかれた。生態学は科学ではないと言われることがある。生態学を科学化する努力に没頭している研究者もあるが、たどり着く先は、言説。つまり、言葉である。生態学は科学的な研究を積み重ねて、思想にたどり着く。

40代は、身体の芯がいつも熱を発しているくらい、夢中に仕事に没頭し、経験の引き出しを増やした。理解したことは、美しい風景を作る仕事の基本は、マネジメントにある、ということだ。竣工した瞬間から劣化が始まるデザインと施工。スクラップ・アンド・ビルドという概念があるが、金がふんだんに動くこの仕事ではなく、生き延びる思想の上

に代謝を続けるマネジメントが、本物の風景を作る。設計、あるいは、都市計画家という立場は、このマネジメントを司る人々から、形にする協力者として仕事を請ける。マネジメント思想の実力が8割。私にできることは2割だ。読解し、デザインの実力の範囲内の仕事に終始する。商業施設、住宅団地、寺院計画、イベント、日本庭園、リゾート計画・・・

このままでは詰まらないと考え始めた40代後半に、神の使者が、「50歳を境に生き方を変えなさいよ」と、ぼつりとおっしゃった。そのころ縁があったのが、北海道の道東だ。考え方を変えると生き方が変わる、生き方が変わると運命が変わる・・・とは、使者の言葉だ。生き方を変えて、運命を変えて、人生の後半生にどんな果実を求めるのか。50歳を過ぎたところに、請けていた大規模な仕事4件、立て続けに竣工した。次の仕事を請けたら、竣工は60歳に近くなる。家内と相談して、事務所を片付け、決心して二人で道東への移住を決めた。国の内外、さまざまな土地に住んだが、住民票と本籍は53年間、大船にあった。これを動かし

てみよう。道東で、自然を主題にして、社会事業を興したいと、漠然と思った・・・

3年は遊んでいた。知人がいなかった。紹介される人に会って歩いた。何をしよう、何をすれば良いか、考え続けた。地方では、コンスタントに税金が流れ込む自治体の存在が大きい。100%民間で生きてきた身分としては、当惑することばかりだった。だまされることも多々あったが、とにかく、この地域を見極めるために、出会うものはすべて引き受けて理解を深めた。人と人の距離がかなりあるので、個性まるだしだ。バルザックの登場人物みたいだと、歓声をあげながら読み解いた。十勝海岸湖沼群は、大樹町、幕別町忠類、豊頃町にまたがるラグーン群地域だ。丘陵が海にだれだれ起伏の多い地形で、湖沼が集合する。地元、観光に関心がないおかげで、人工物が極端に少ない。美しい。自然度が高い。これを資源化して、社会事業を興そう・・・そんなことを考えている頃、湿原生態学者辻井達一氏に出会った。北大教授を経て、北海道環境財団理事長を15年間務めていた。気が合って、合えばいつも

談論風発に花が咲いた。構想を話したら「惜しみなく協力する」と。キリスト者だった。

ラムサール条約会議座長を務めていて、様々な功績でラムサール条約に旅をした。ホフマン・ラ・ロッシユ創業一族のホフマン氏も同席し、カマルグ湿原の研究所にある自宅に招かれて滞在した。1ヶ月の間、辻井達一氏の話聞き続けた。80年の人生は、汲めど尽きぬ泉だ。2人で一般社団法人湿原研究所を設立して、辻井氏に4年間の代表理事を依頼した。その後は私が引き受けますから、と。しかし、設立後1年を経ずに、辻井氏は急逝した。地元の実業家に後を継いでもらい、設立後4年を経た今年、予定通り、私が代表を引き受けた。湖水地方自然博物館設立に向かつて、2018年1月から準備委員会を開始する。

湘南サッカー部同期の相馬政岐君が作ってくれた縁がきっかけで、中国浙江省の大学に客員研究員として席を置いたのもこのころからだ。6年間在籍して、定期的に出かけていき、大学院でランドスケープについて講義をした。そこから、臨済禅の

世界に縁ができて、復興計画に協力し、仏教大学でも講演を続けた。日本における外来文化の源流に触れる、素晴らしい時間だった。

牧場を始めたのは、2013年だ。社会事業を興すといっても、地域の協力がなければならぬ。このような過疎地では、理屈を言っても鼻もかけてもらえない。地域の経済に参加することが絶対条件だと考えた。

十勝海岸は、夏になると海霧が陸にあがり、気温が下がる。積算温度が不足するから穀物はほとんどできない。草しかできないから酪農地帯だと人は説明した。「海霧は資源にならないか・・・」と聞いて歩いたら、海霧が海のミネラルを運ぶから草が栄養豊富になると教えてくれる人がいた。よくよく調べていくと、大西洋に面したノルマンジーのカマンベールが同じ条件で、チーズの熟成が深く、旨みが豊かだ。海岸の草を食った羊肉は、プレサレといって高値で取引される。

海岸草原のブラウンスイス、そして、湿原の地域性を発信するために湿原のイタリア水牛、2系統酪農という難しいビジネスモデルになった。4年近く前にやってきた5頭のブラ

ウンスイスに触ったのが、牛に触れる初めての体験だった。だから3年間、地元の酪農家2代目に牧場の運営を荷ってもらった。手伝いながら、少しずつ理解して、今年から私が細部にわたるまで牧場を支配している。

乳製品製造も同様だ
そのあたりのことは、今年、書き始めたブログ「随想山水記」を読んでいただければ幸いだ。

<http://www.landscape-essays.jp/>
通販サイトもあるので、ご興味ある方は、ここからご注文ください。企画開発の難しい時期に、この売上げが資金源。協力していただければ、とても助かります。

<https://landscape-essay.shop-pro.jp/>

私の今の人生は、私の経験のすべてを精査して、この山水記「第四巻 自然万象」に記述することにある。手掛けていることすべてが、そのためにあると言えるだろう。子供のころから、私知っていた事実。自然が世界を支配している規範と力だと考えてきた。そのことが、私に周囲との、かすかな孤立感を感じさせてきたその真実を、思想として刻印す

ること。

自然博物館の中に、湖水地方牧場と、ロケット射場、係留気球事業を位置づけて、地域事業化、社会事業化を実現すること。そんな様々な仕事のすべてが、自然万象を書くためのプロログにすぎないのだ。すでに第一楽章は書き始めた。今後、どれほどの時間を与えられるのか：

最後になるが、自然世界には、奇跡も予言も自在に存在する。日本はこのままではアメリカが始める戦争に巻き込まれて滅亡してしまう。アメリカと手を切る決断が国民に求められる。その道筋も分かってはいるが、簡単ではない。誰もが胸に手を当てて、自然の詞に耳を傾けるべき時代だと申し上げたい。

きりがないから、このあたりで筆をおかせていただきます。ありがとうございます。



1. ペガサスO・70発足10周年

平成20年にペガサス内に正式にO・70部門が設けられてから、今年で10年目となります。前年の平成19年に第1回全国シニアO・70大会が行われ、この大会に合わせてO・70チームをペガサス単独で編成して参加しました。その頃から、他にも東日本ロイヤル大会や関東Gリーグ、清水交流会等のO・70大会が各地で開催されるようになり、これらの大会にペガサスは単独チームで連続して参加して来ました。単独クラブチームでこれだけ続けて参加しているチームは少ないと思います。10年も経つと、発足当初のペガサスO・70メンバーは80歳を超え、今やO・80のサッカーが始まる時期となっています。O・75の試合も行われています。O・70は毎年新しい若手を迎えて戦力が向上していますが、競合チームのレベルはそれ以上に著しく向上しています。このようにチーム内でも年齢差が大きいです。それぞれがサッカーを楽しめるように、活動内容により、U・76、O・75、O・80と分けて活動するようにしています。

2. U・76の活動

今年には県内の二つのリーグ戦で9試合、県外の大会で17試合、合計26

試合を戦い、戦績は8勝13敗5分けでした。県内のリーグ戦は、イースト、ウエスト、茅ヶ崎、ペガサスの4チーム参加で行われ、全国シニア神奈川リーグとシニアリーグの二つがあります。前者は今年からホームアンドアウェイの6試合となり、後者は3試合です。シニアリーグは2勝1分けで優勝しましたが、全国大会に繋がる全国シニア神奈川リーグは、1勝4敗1分で3位に終わり、念願の関東大会出場を逃しました。この大会は全国大会次年度の予選会のため、参加資格がO・69です。若手の戦力が重要となります。県外では「家康公記念杯清水スーパースニア」、「市原インターナショナルマスタース」、「関東Gリーグ埼玉」、「静岡県サッカーフェスティバル」、「スパイエイジサッカー大会イン刈谷」、「東日本ロイヤルサッカー大会」の6つの大会に参加し、5勝9敗3分と少々残念な結果に終わっています。市原でのデンマークコペンハーゲンチームとの試合で相手の足の長さに翻弄されたのも悔しい思い出となりました。

3. O・75の活動

O・75でも、ペガサスとしての単独チーム編成が可能になって来まし

た。しかし、大会がO・70やO・80と重なるために、メンバーが重複しますので、ペガサスチームとしての参加はしていません。ペガサスO・75メンバーは、神奈川O・75チームの一員として、「静岡県サッカーフェスティバル」、「宮城松島大会」、「東日本ロイヤル大会」に参加しています。

4. O・80の活動

O・80の大会は、「静岡県サッカーフェスティバル」、「宮城松島大会」、「西日本OB連盟大会」の3大会が行われました。参加チームは首都圏、東北連合、関西・九州・中部連合、東海連合、等の連合チームです。ペガサスO・80メンバーは首都圏チームに、3名から5名が参加しました。

5. 交流会

上記のリーグ戦や大会の他に、定期的に交流会を行い、日ごろのトレーニングをしながら健康増進と楽しみのサッカーを行っています。平塚馬入では8月以外の年間を通して、毎週火曜日にO・70対象の交流会を実施し、月1回はリーグ戦（ロイヤルリーグ）も行っています。横浜・川崎地区では、O・75対象の首都圏交流会が毎月3回程度開催されています。この交流会では三ツ沢球技場な

どの良好な天然芝ピッチでのプレイが楽しめることも有り難いことです。上記のように、各年齢カテゴリーで、勝ちを求める試合、或いは親善重視の試合等、多様な試合を県内や県外の各地で行い、日常的には交流会で楽しむことを年間を通して行っています。



ペガサス65活動の舞台はGリーグとなつていきます。今年は昨年の成績よりもさらに上を目指し、勝率7割を目標に掲げて戦ってきました。もちろんGリーグ参加の目的は、県外チームとの交流が主ですが、私は試合をやるからには勝ちにこだわりたいとも思っています。メンバーは、ペガサス60以外のチームに登録している人を含め26名ですが、今年の試合への参加状況は、ほとんどの試合で12〜13名と、大変厳しい状況となりました。Gリーグの試合数は一日の大会では2試合、一泊二日の大会

では4試合で、できることなら最低でも毎試合15名は確保したいところです。各チームの実力はほとんどどろどろの背比べ状態で、最後まで勝ちにこだわって頑張ったチームが、勝利をつかむといった状況がここ数年続いています。今年度の成績は、6勝8敗1分、得点18、失点21と目標には届きませんでした。一年間を通して試合結果を眺めると、やはり正ゴールキーパーが不在だった試合は失点も多く、得点を挙げているにも関わらず、もったいない結果に終わってしまったのが特徴として挙げられます。

試合は例年、新年度のスタートと同時に始まり、4月の埼玉大会（深谷）、千葉大会（市原）、6月の栃木大会（那須）、7月の茨城大会（ひたちなか）、9月の関東シニアサッカー埼玉大会（深谷）と11月の東京大会（那須）となつていますが、今年は例年と少し様子が異なり、4月の千葉大会が「市原マスターズ大会」と称し、外国チームを迎えての一泊二日の大会となり、また9月の関東シニアサッカー大会は、都合により中止となりました。ただ試合数で見ると、例年の16試合に対し今年15試合でしたので、ほとんど例年と同

じように試合を楽しむことができず、試合結果は以下のようになっています。

- 市原マスターズ大会（4／8、9）
 - 1・2 ACちば ● 1・3 市原ボンズ ○ 2・0 在京広島OB
- 埼玉大会（4／16）
 - 1・0 東京 ○ 3・0 埼玉けやき

- 栃木大会（6／24、25）
 - 0・2 栃木 △ 2・2 群馬
 - 3・1 水戸・古河 ○

- 茨城大会（7／8）
 - 0・1 ACちば ● 0・4 群馬
- 東京大会（11／11、12）
 - 0・1 東京 ● 1・2 茨城

○ 1・0 栃木 ● 2・3 ACちば
Gリーグのカテゴリーは、0・60、0・65、0・70に分かれています。ペガサス60は昨年度の大会への参加が少なく、今年60代表とも相談の上、Gリーグ大会は不参加としました。過去には0・60のカテゴリーにも積極的に参加してきましたが、そのメンバーがすでに0・65のメンバーとなったため、今年0・65と0・70の活動にとどまりました。大変残念ですが、ペガサス60メンバーの外部大会への参加率の低さは、今

後の課題ととらえています。来年度はペガサス60のチームを二つに分けて運営することになりましたので、0・65、0・60ともにGリーグへの参加がさらに難しくなるものと思っ

ています。特にシニアリーグや県リーグと日程が重なった場合には、確実にGリーグへの参加は不可能となります。ただ、来年度0・65から0・70に移籍するメンバーが3名いますので、0・70については問題なくGリーグに参加できるものと思っ

長年かかって先輩たちが県外チームと対戦できる環境を作り上げ、ここまで継続的にGリーグに参加してきた経緯を考えると、これから何とか継続して参加できる体制を整えたいものです。Gリーグには、県内リーグとは異なる楽しみがありますので、できることならできるだけ多くメンバーにその楽しみを味わってもらいたいと思っています。関東各県からチームが集まりますので、思いがけず学生時代のサッカー仲間

遭遇したり、中には昔の日本リーグや関東リーグでプレーした人と出会ったりすることも、楽しみの一つとなつていきます。試合会場が遠いため、その分時間と費用が掛かります

が、それ以上の楽しみを感じる事ができれば、継続して参加する価値はあると思っていますので、皆さんも是非、Gリーグへの積極的な参加をお願いいたします。



まず湘南ペガサス60の今期の戦績を紹介します。

シニアリーグは加盟チーム数の増加に伴い2部制に移行して2シーズン目になりました。昨期は辛うじて一部残留し、今年も厳しい戦いが予想されましたが、1部9チームによるリーグ戦を行い、1勝4敗3分勝点4得点4失点11で、勝ち点で川崎と並びましたが得失点差で辛うじて8位、自動降格を免れ昨期同様、1部2部入れ替え戦に臨みました。11月26日ペガサス祭と同日に、昨年最終戦に勝利して今年同様入れ替え戦に廻った因縁の対戦相手、自動降格した栄光との試合に引き分けて一部残留となりました。

県議長杯は1回戦敗退し、全国シニア大会0・60県予選リーグBブロックでの戦いは、現在2勝2敗勝点6得点3失点5で9チーム中5位、残す所4試合となりました。

昨期よりも無得点試合は減ったものの、得点力不足は相変わらずで、最近自分の体のコンディションも踏まえるとこれは構造的な問題なのではと感じております。年とともに筋力が衰え、当然の事ながらキック力が弱くなりゴール近くのシュートでなければ得点に繋がりにくくなっています。個人で突出したスピード或いはキック力を持った選手がいる場合は別ですが、それ以外の場合はやはりゴール前を横切るボールに合わせて得点する事を狙うべきです。今期坪井監督も毎試合、サイドからボールを入れると言う事を繰り返し指示されていきました。言うは易く行うは難し、ですが愚直にその方針に沿ったプレーを続けるしか無いと思います。

来年度のペガサス60の体制ですが、ペガサス55から60に上がってくるメンバーが10名近くいること、現在でも試合に参加するメンバーの十分なプレー時間が確保出来ないこと等を踏まえ、ペガサス幹事会で

議論を重ね2チームに分割する事を決定しました。既にシニアリーグへは新規チームの登録申請を行い、理事会での承認は得ています。シニアリーグは同カテゴリーでの2チーム登録は認めておりませんので、新チームはトーラス60というチーム名で活動することにしました。年齢順で両チームがそれぞれ確実に各試合で13、4名の参加者が確保出来るように配分しました。来期は年齢が上の世代がトーラス60に所属し60雀リーグ2部で戦うこととなります。ちなみにトーラスとは牡牛座を意味します。新チームの加盟にあたりシニアリーグの理事を務めていらっしゃる伊通さんには大変なご尽力を頂き、心より感謝致します。紙面を借りて御礼申し上げます。

個人的な話になりますが、65歳を過ぎて体力の衰えを強く感じ、何とか戻せないものかと考え、その為には目標を持たねばと友人に相乗りし、今年6月のストックホルムマラソンにエントリーしました。還暦の時にホノルルを走った経験も有り、時間も有るのでトレーニングを積みその時を同じ位のタイムで走りきれると目論んでいました。半年前から少しずつ走り始めましたが前回とは全

く様相が異なり走り始めた途端に足底筋膜炎を発症し、これが治ったと思ったら腰の痛みが出るなど次から次へと場所が変わって痛みが出て来ます。ホノルルの時は練習をすればタイムもどんどん上がって行きましたが、今回はなかなか上がらず挙げ句の果てにレース1ヶ月前に左脚の付根の外側に痛みが出て、レース本番まで殆ど練習出来ず、途中棄権覚悟で出場しました。幸いにして、途中で飲んだ痛み止めが効いて何とか制限時間内に完走は出来ました。

今回実感したのは、この5年で体が相当に柔くなって来ている。現状を維持するだけでも相当な努力が必要で、何もしないと急激に体力が落ちていくという事です。

ペガサスの試合で納得のいくプレーを続ける為に今後もトレーニングを続けて行こうと考えています。



湘南ペガサス55は昨年度、六角孝司代表・小石巖監督の下、55歳未満の3名の抜群の攻撃陣と55歳以上の堅固な守備陣をもって神奈川シニアサッカーリーグ五十雀2部でブロック優勝を飾り、見事1部に昇格しました。しかし、代表に就任した私の不徳の致すところでございますが、

今年度は怪我人も多く、また決定力のなさから1点差の勝負をことごとく落とし、10試合（1試合は雨天の連続で中止）0勝10敗、得失点差・34、ダントツの最下位（12位）に終わりました。しかし、来年度の2部降格はありません。それはこのチームの登録28名（うち湘南OBはわずか6名）中、14名の方が今年度に還暦以上を迎え、皆さん揃ってペガサス60に異動されるためにチーム存続が不可能となり、今年度限りでチームが消滅することになったためです。今年度は40が四十雀1部リーグで初優勝、来年度は65歳以上の新チームも県リーグに承認される見通しという明るい話題の陰で、諸先輩方が創られ10年以上にわたり伝統を守ってこられた湘南ペガサス55が今年限りで無くなることは誠に残念ですが、時代の流れとしてやむを得ないことと思えます。55メンバーのほとんど

は来年度ペガサス50または60に所属して活躍されることと思えます。私も来年度はペガサス50の幹部として、何としても1部返り咲きを果たしたいと考えております。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。



ペガサス50の代表を特に何の目標も持たずに受け継ぎ8ヶ月経った。KSSリーグにおいては、代表を引き受けた時点で予想していなかった全く勝てない試合を繰り返す。勝てないだけでなく、勝ち点さえ取れない。順位下位との直接対決の残り2試合を2勝すれば入替戦というところで、10月の悪天候による試合延期が続く、最後の試合を中止とするKSSで初めての決定がなされるという運の無さもあり、最終的に1勝9敗の11位で自動降格、得点3、失点24、唯一の勝利はペガサス55という、おそらく過去に無かったであろう惨

憚たるものとなった。

もう一方の全国シニアは、今年から50&55の混合チームで参戦している。こちらも状況に大きな差は無く、6試合消化の段階で0勝3敗3分と勝ち点こそあれ未勝利という状況である。

つまりペガサス50は弱いチームなのである。個人的にも代表としても、この認識をリーグ戦が終わった段階で認識したことが、この結果の一因だと思える。こんなはずは無い、という誤解から戦い方を誤っていたのでは無いか。

来年度は、55との合体した新チームとして、KSS、全国シニアに参戦することが決まっている。

これだけ失点され、点が取れないだけあって今年のリーグ戦は楽しめなかったもので、今年度の全国シニアの残り試合、来年度の試合は是非楽しみたい。

チームメンバーと、楽しむ為に失点をなくす工夫と頑張りを、楽しむ為に得点する工夫と努力を、そして楽しむ為に勝てるチームを作っていければと思う。

劇的に若返りがあるわけでは無いので、来年度は、今年も含め毎年悩まされている参加人数不足が解消さ

れピッチ上でフレッシュな状態でボールを追いかけられる環境となることを切に願う。



ペガサス40は、神奈川県シニアサッカーリーグ四十雀1部に昇格して5シーズン目になります。これまでの成績は2013年から4位、5位、2位、3位と上位には位置できているものの残念ながら優勝には及びませんでした。特に昨年は最終節まで優勝争いに絡むことができ最終戦に勝利すれば優勝、引き分けで2位、負ければ3位という状況でしたが、最終的に2位になった藤沢40に惜敗し3位に終わっています。そのすぐあとに行われた「鈴木中先生を囲むゴルフ会」に参加させていただいた際に、先輩方から「惜しかったね」「残念だったね。勝てば優勝だったんだろ」とたくさんの労いと励ましを頂戴し、サッカー部のつながりを感じ、「来年はよい報告がで

きるといいな」と思っておりました。そして今シーズン、最終節の1試合を残し優勝を決めることができました。私自身は数年来の膝の故障に対して8月下旬に手術を行っていたためリーグ戦後半戦はベンチから応援をすることしかできませんでしたが、今年のゴルフ会では先輩方による報告をすることができ、正直ほっといたしました。

湘南ペガサス40の現況について書かせていただきます。チームのメンバーについては、年齢による加入と離脱のほか、家庭の事情や転勤などでメンバーの移り変わりも多く、練習する機会も少ない状況です。そういった状況下で、コンビネーションを構築しながらチーム力を上げていくことは至難といえます。なにより公式戦に11人そろるか?という問題もあり、特に終盤戦の秋にはいろいろな事情でひとが集まりにくいことはここ数年感じていて、それともにも後半戦に成績が伸び悩み優勝戦線から離脱することもしばしばです。メールやLINEを介して、チームの共通理解を促したり、普段行っているトレーニングを発信して皆にあるいは自らに良い刺激を与えたり、というように限られた少ない時間の

中でできることを少しずつ行ってきました。持っている体力や技術に差がある中でも自分の役割を意識して準備すること、試合に臨んでは、味方のよいプレーをほめてミスはみんなでカバーしようという意識も徐々に浸透してきたのかな、と感じます。

今年度、メンバーや人数確保が厳しい中、優勝という最高の成績を残せたのは、これまでペガサス40を支えてきてくださった諸先輩方、チーム代表の井上さん(65回)、副競技委員を担当してくださった大隈さん(65回)。来季は正競技委員で今季以上のにご負担がかかります)、審判担当の甘糟さん(65回)、会計担当の江副さん(65回)、そしてご家庭や仕事の状況とサッカー活動をやりくりし続けてくれた40のメンバー皆さんのおかげだと思います。

湘南高校出身者だけでなく、湘南高校卒業後の大学チームや社会人チームでの「つながり」と「縁」からペガサスに加入してくれる方々に支えられて、このチームが永く継承されていくことを願っております。最後に、これから40代になる方、もう40代になっている方に一言。ペガサス40の扉は常に開かれておりますので、ペガサスという良いコミュニ

ティーで本気のサッカーをしましょう。ご参加(まずはご連絡)お待ちしております。



湘南高校サッカー部OBの皆様、平素より大変お世話になっております。若手OBチームトトカルチヨ湘南の町田道誠です(89回)。今年度のトトカルチヨ湘南の活動報告をさせていただきます。早速ですがトトカルチヨ湘南の本年度試合結果のご報告です。

- vs 藤沢市役所 1・8 ●
- vs FC Girasole 0・4 ●
- vs 初声FC 2・2 △
- vs SALVATORE1991 2・2 △
- vs 鎌倉市役所 (12/3)
- vs 美蹴団新横浜 0・1 ●
- vs 横浜新井FC 2・2 △
- vs FC ARROWS 0・2 ●
- vs Panasonic/VIORA 3・0 ○

このように11/26日現在で1試合を残して1勝4敗3分の勝ち点7となっております。シーズン序盤において引き分けと負けが重なり、早い段階での昇格の芽がなくなってしまうことは大変残念でしたが、来シーズンに繋がる戦いを最終節においてできればと思っております。今年度もなかなか選手が集まらずギリギリの人数での戦いでした。また昨年から大幅にメンバーが入れ替わってしまったことにより、連係の部分や技術的部分において差が生じてしまいました。来シーズンはより多くのメンバーが継続的に参加していただけることを切に願っております。

現在の課題として、人数不足の他にGKの不在が挙げられます。登録していただいているGKも多忙のため、継続的に来ていただくことが難しい状況です。そのため、GK不在の中での試合が多く、今年度もフィールドプレイヤーがGKをやる試合が多くありました。個人としても今年度2回ほどGKをやっています。そのため、可能であれば近年の卒業生のGKの方に多く来ていただければと思っております。最近では大学の体育会でやる選手が増えて来ているため、GKだけでなくフィー

湘南をよろしくお願いいたします。



79回生の櫻井です。毎年、ビーチサッカー及び湘南スプレッドのことを書く機会をいただき誠にありがとうございます。

湘南高校サッカー部OBを軸とした、ビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』は11年目となりました。

今年、5月に、2年に1度のFIFAビーチサッカーワールドカップがバハマで開催されました。アジア予選を3位で突破した日本代表は、競合国のブラジル、タヒチに敗れ、予選グループを敗退（後にブラジルは優勝、タヒチは準優勝）。惜しくもメディア露出につながらない結果となりました。

国内の環境は、一昨年度設立した日本ビーチサッカー連盟がJFAの加盟団体として承認され、地域リーグの整備等が進められています。

地域リーグは現在、6地域（東北、関東、東海、関西、中国、九州）で

実施され、2地域（北海道、北信越）でプレリーグが実施されています（四国は次年度開始予定）。

その中でも最大12チームが参加する関東リーグに、湘南スプレッドは参戦しています。

今年12チーム総当たり1回戦で行われ、結果は第5位という結果になりました。

また、全国大会の予選となる、関東大会では、全国の切符を得る上位2チームに入らず、全国大会出場を逃してしまいました。

一方、シーズン終盤の賞金15万円の大会では、全国3位のチームに競り勝ち、優勝を果たし、一矢報いることはできました。

今年度は、東京ヴェルディの公式ビーチサッカーチーム（全国大会優勝、関東リーグ優勝）や、湘南ベルマーレの公式ビーチサッカーチーム（来年度各種大会に参戦予定）が誕生する等、強力なライバルチームも続々と参入しています。また、元Jリーガーの選手も増えてきており、

ライバルのレベルは確実に上がっているものの、関東の中位の位置で満足せず、チーム力にテコ入れを図っている状況です。

また、横浜瀬谷区にナイターのビーチサッカーコートが誕生し、練習環境が改善されています。一方で、選手の平均年齢はどんどん上がってしまっているため、今後も若手の呼び込みに注力していきたいと考えています。

今年もこの場を借りて、選手及びサポート頂ける方を募集させていただきます。少しでも興味を持っていただいた方がいましたら、気軽にご連絡いただければと思います。

最後に個人の活動について書かせていただきます。

2018年1月に、2人目の子供が産まれる予定です。仕事、家庭、ビーチサッカーをやりくりするのが一層厳しくなりますが、これからもビーチサッカーを通じて、OBの皆様にも明るいニュースを届けられるよう頑張ってお参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

櫻井大輔

（二財）日本ビーチサッカー連盟 評議員

関東ビーチサッカー連盟 事務局 長

（二社）神奈川県サッカー協会

ルドの選手もトトカルチョで活動を行う大学生の選手も減ってきております。活動としては月に1〜3試合ほどで、日曜日に試合が入ることが多いため、サークル活動とも並行して行うことは可能です。そのため、大学生の卒業生が来ていただけだと思います。自分も就職活動や、大学の研究室等の用事もあるため、参加できる日程が来年度は少なくなってしまうと思います。また、現在大学院に通っている方も就職活動があり、また来年から就職するためになかなか来られなくなってしまうメンバーもいるため、現在大学1、2年生、そして卒業生や今年浪人が終わる卒業生には是非積極的に参加していただきたいとおもっています。こちらからもお声がけさせていただこうとも思っておりますので、何卒よろしくおねがいいたします。

湘南の選手は技術が高い選手が多いため、メンバーが揃うようになれば今後神奈川県2部や神奈川県1部へと昇格していくことも可能ですので、まずは人数を揃えること、その中のメンバーで勝利を重ねていくことを目標に、来年はまず入れ替え戦へと進出することができればと思っております。今後ともトトカルチョ

ビーチサッカー担当
藤沢市ビーチサッカー協会 理事
メールアドレス…
sakuraid@jimconsult.com



今年度も、OB会の皆様には多大なご支援を頂きましてありがとうございます。ご

ざいます。
OB会の皆様のご支援により、日々の生活が充実したものとなり、数多くの卒業生が国公立大学を含め大学進学後も体育会のサッカー部やサークル、社会人クラブ等でサッカーを続けてくれています。また、浪人した卒業生もその後成長し、1ランク2ランクレベルアップし、難関大学に進学しております。卒業生ならびにOBの皆様の活躍は、現役選手にとっても励みとなっております。これからも多方面において活躍される事を願っております。さて、今年度の大会結果についてはご存知の通り、関東大会2次予選

は4回戦で湘南学院に2・3で破れベスト23、インターハイ2次予選では2回戦で星槎国際に1・2で破れベスト29、選手権2次予選では2回戦で桐蔭学園に2・3で破れベスト29、U・18リーグではトップチームがK3リーグDグループ6位、BチームはK4リーグCグループで優勝、CチームはK4リーグCグループ9位という結果になりました。

今年の3年生は、入部当初から人数も例年に比べて非常に少なく、部の仕事や活動においても、色々な面でとても苦労してきた学年であり、メンバーに入れない選手も多く非常に悔しい思いをしてきた学年でもあります。それでもとても真面目に忍耐強く頑張ってくれ、3年間地道に努力してきた結果、1人1人が入学時から想像出来ない程の成長をしました。特に最後の大会である選手権2次予選1回戦綾瀬戦では、粘り強く戦い、泥臭く勝利し、2回戦の桐蔭学園戦では、終盤でのとても気持ちの入った追い上げで、素晴らしき試合をしてくれたと私は思っています。また、U・18リーグでは最低限の3部残留で、後輩たちにきちんとたすきを繋いでくれました。3年生はこれから本当に厳しい受験勉強

の戦いが続いていきますが、ぜひ最後まで諦めないで頑張ってくださいと思います。

現役情報でも配信されていましたが、敗退したほとんどの試合に共通している速いカウンターに対する守備が克服出来なかった事がとても悔やまれます。カウンターを受ける前の攻撃でしっかりと最後までやりきる力、またしっかりと決めきる力とリスクマネージメント力、そしてカウンター攻撃に対応するグループ・個人での速い判断力の伴った守備力を身につける為に、チームはもちろんです。特にグループ、個人における攻撃・守備を今一度見直さなければと痛切に感じております。同時に、この原稿を書いている現在、神奈川県選手中権2次予選ベスト4が決まり、そこには湘南学院、桐蔭学園といった、今シーズン公式戦で湘南が敗退した高校が名を連ねている事も事実です。決して「神奈川制覇」は夢ではなく、確かな目標であると選手たちも再認識したはず。道のりは険しいですが、来シーズンに向けて今一度基礎基本を大事に日々精進してまいりたいと思います。また、今年度末には2年に1度の海外遠征が計画されております。O

Bの方々には多方面に渡りご支援ご協力頂きまして誠にありがとうございます。今回は、ドイツ・スペインに滞在し、練習・試合・試合観戦・観光・学校交流を行う予定です。同じヨーロッパでも国によるサッカーの違いや文化の違い等、様々な気付きや学びを選手は経験してくると思います。こうして貴重な経験ができるのも、OB会の皆様のご支援があつてこそであると改めて実感します。この場をお借りして御礼申し上げます。帰国後すぐの関東大会2次予選、そしてU・18リーグ、インターハイ予選、選手権予選と新シーズンがスタート致しますが、今後とも引き続きのご支援の程よろしくお願い致します。



今回、現役報告をさせていただき榮田大です。日頃より、OB会の皆様の強いご支援とご協力に支えられ充実した活動を送ることができ、大

変感謝しております。その感謝の気持ちをお忘れず、ご期待にお応えできるよう日々精進していきたくと思っております。

9月23日に桐蔭学園に敗れ、3年生の引退が決まりました。多くの2年生がトップチームに絡み試合に出場していたというのを活かして、新チームでは新しいスタートを切るのではなく、その豊富な経験をもとに3年生がいなくなつてからも上積みしていくことを念頭において日々努力しています。

実際に選手権を経験し、チーム目標である、神奈川制覇は、険しい道りである事はもちろんですが、決して手の届かないものではないと、改めて確認することができました。

現在、まだ続いている選手権では、湘南高校が関東大会予選、選手権であと一步の所で敗れた湘南学院、桐蔭学園が勝ち残っており、少しの差が大きな結果生むということや、その少しの差を埋める難しさをひしひしと感じています。

私たちは今、個の力の向上に取り組んでいます。守備ではボール奪取やスライディング、ヘディングの競り合い、予測、周りを動かす声などを、攻撃ではオフザボールでの相手

との駆け引きやオンザボールで相手を外す力など、一つ一つのプレーの知識を学び、身に付けることでレベルアップを図っています。まだまだ拙いですが、プレイスピードが上がると、チーム内のセオリーの基準のレベルアップが進んでいると感じています。また、コンディショニング指導やウエイトトレーニング、体の使い方などのトレーニングなど、様々な面からのサッカーへのアプローチや、測定による成長の可視化は、大きな力になっていると思います。これらは他の強豪校にもなかなかないもので、湘南高校サッカー部の強みになっていると思います。この強みをサッカーの中で発揮できるように意識して取り組んでいます。このような恵まれた環境でサッカーができるということに対し、大会で結果を出すことで少しでも恩を返せればと思っております。

春に予定されている、OB会の方々のご支援による海外遠征では、日本とは異なったプレーやサッカーの考え方などを感じて、帰国後のサッカーに良い部分を取り入れていきたいと思っております。また、サッカーだけでなく、海外の食事や文化、学校交流を通じて、多くのことを吸収してい

きたいと思っております。

部員一同、竹谷先生を始めとする先生方、OBコーチ、トレーニングコーチ、コンディショニングコーチなど沢山の方々のご指導のもと、神奈川制覇を目指して日々精進していきます。OBの皆様の温かいご支援には大変感謝しております。これからも変わらぬご支援よろしくお願いいたします。

編集後記

事務局長 48回生

関 佳史

2018年春のスペイン遠征は、3月23日から4月2日まで。ドイツ・ミュンヘンから始まりスペインのビルバオとマドリッドを訪れ、試合と学校交流に加えてプロリーグの試合観戦を予定している。OBは、41回相羽克治さん、医師の64回若木均さんとコーチの89回町田道誠さんが同行する。遠征を始めた清水好郎先生も退職する時期に当たり、現地でも合流する予定である。

恒例となった46回森秀樹さんの英

語研修は全部で8月から8回実施の予定。各回の前半(1時間)は、その時々々の世界のニュースを英文で読み興味を持ってもらう。例えば、スペインのカタルニア地域(中心都市はバルセロナ)の独立運動、ドイツのブンデスリーガで奥寺康彦さんが殿堂入りしたニュースなど。後半は、生徒達が訪問国の文化について調べてきたものを英語で発表し、英語で質疑応答する練習をしている。ドイツの音楽について調べてきたグループの発表者が中心になって男声合唱でオラトリオを歌ったのには、森さんも驚いたという。OBの指導や引率、そして金銭面での援助があつて遠征が成立していることは現役も実感しており、OB会へのロイヤリティは高まっている。

8月には54回篠塚毅さんの講演、11月には関の講演を湘友会セミナーの形で実施したが、現役部員の全員が参加し、先輩の話聞く機会となった。内容の報告はHPで。
http://www.shoyukai.org/?page_id=3859

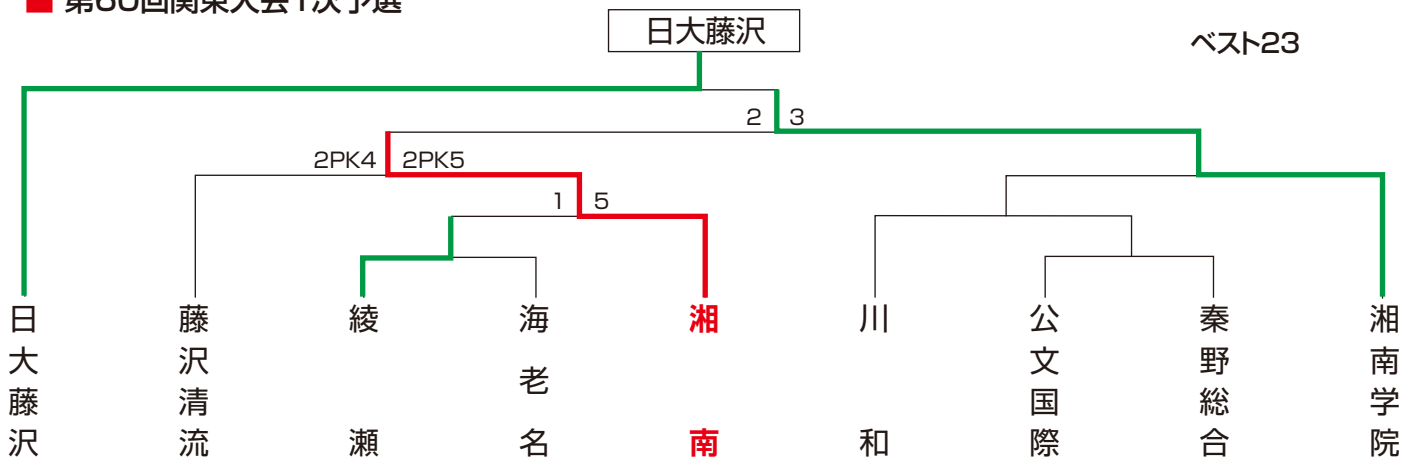
また、8月のセミナーでは60回の女子マネージャーである鈴木佳子さんが司会を務めた。女子マネージャーがOB会で活動できるようにな

場を今後さらに検討していきたい。
 HPでは、新企画「卒業アルバムから」が「サッカー部OB会」の下にできた。45回浅倉泰さんのご努力で湘南高校図書室に現存する卒業アルバムからサッカー部の集合写真を抜き出したもの。昭和33年2月の火災により、一部のアルバムは学校にない。31回以前と、33、34、37が抜けており、お持ちの方があれば、お借りしたい。

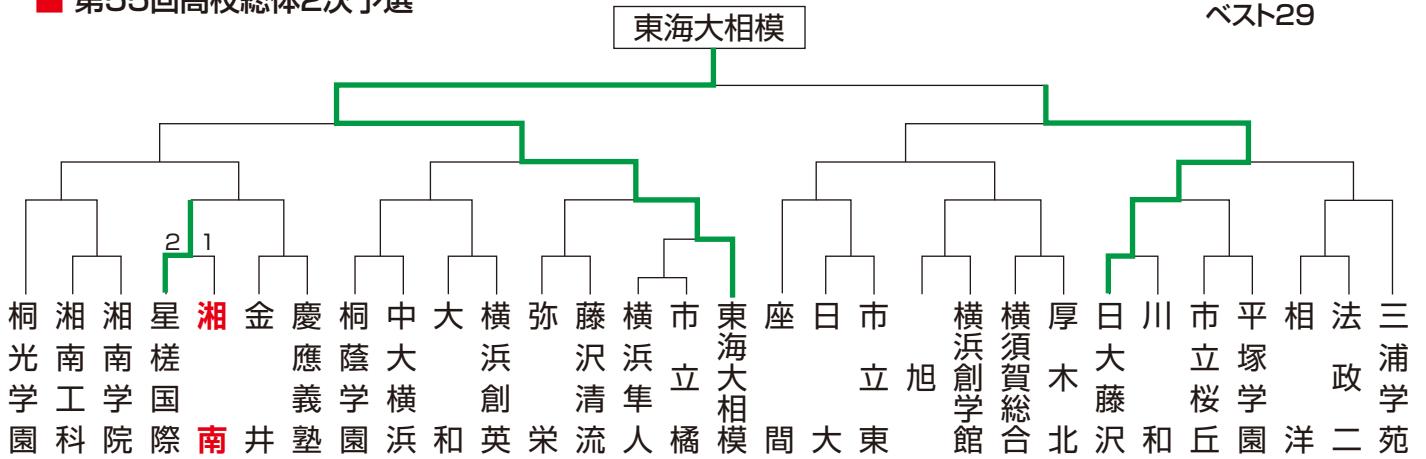
関が「湘南現役情報」のタイトルで、現役の公式戦のうち、関東、総体、選手権の試合レポートをメールで600名ほどのOBに配信している。メールアドレスの変更、携帯でPCからのメール受け取り拒否としているケースなどが目立ち、大量に不着となっている。受け取れていないOBは関までメールアドレスを連絡して下さい。

〒247・0056
 鎌倉市大船5・3・25
 携帯080・5040・6644
 sekig644@yahoo.co.jp

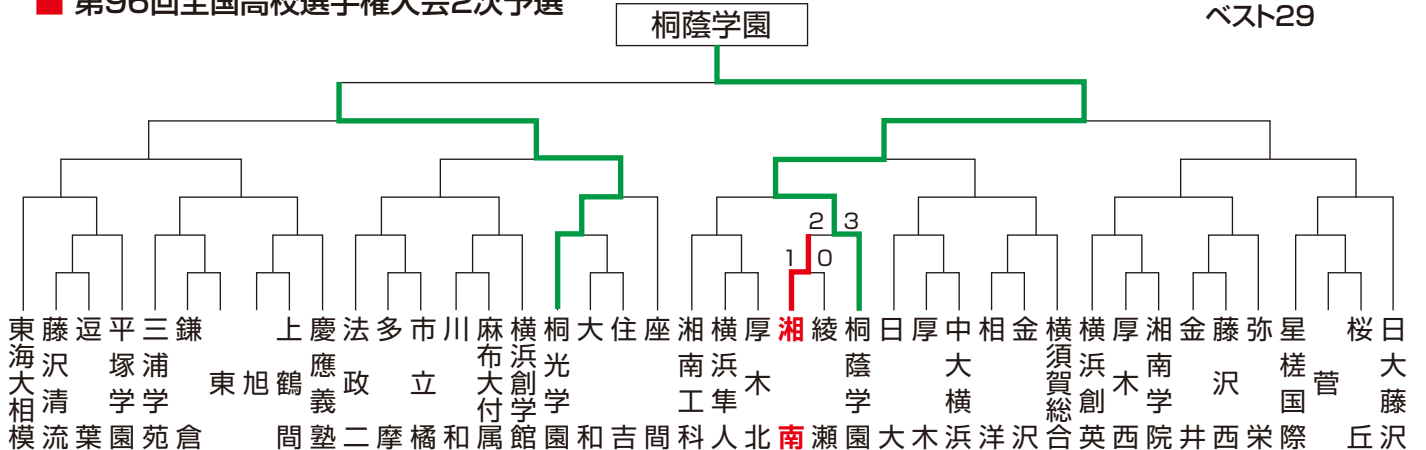
■ 第60回関東大会1次予選



■ 第55回高校総体2次予選



■ 第96回全国高校選手権大会2次予選



[平成28年度 会計報告・予算案]

収入

	29年実績	30年予算
会費・寄付	1,508,000	1,370,000
前年度繰越	28,524	72,889
スペイン遠征繰越金(補助)	0	400,000
利子	13	0
計	1,536,537	1,842,889

※収入見込み 社会人 145名、学生 40名が納入 10,000×105名+ 5,000×40名+ 3,000×40名

支出

	29年実績	30年予算
現役寄付(付属戦補助含む)	500,000	500,000
蹴球祭	84,048	90,000
スペイン遠征補助(繰越金)	400,000	750,000
通信・事務費	87,380	90,000
印刷費	192,220	200,000
100周年積立へ	200,000	200,000
繰越金	72,889	予備費 12,889
計	1,536,537	1,842,889

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、6年前より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いいたします。現在積立金は、
¥1,400,504 - です。
また、100周年事業に関しては現在、幹事及び各世代代表と話し合い「記念誌」発行への作業を進めております。OB各位に資料など情報をお願いすることもございますので、ご協力よろしくお願い致します。
イベントに関しては今後の課題ですが「実行委員会」をつくり検討していきます。こちら各各位のご協力をお願い致します。

現役寄付・会計報告 平成28年11月1日～平成29年11月12日

収入		支出	
前年度から繰越	607	遠征補助	28,200
寄付	500,000	トレーニング用品等	111,815
その他	0	筑波大附属定期戦	0
計	500,607	会場・試合等	138,269
		参加費等	45,500
		海外遠征関連	0
		ボール	81,000
		コーチ費用	99,066
繰越金	▲ 3,243	計	503,850

[30年度会費納入の件]

29年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。(振り込みには卒業年を入れてください)


- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166
湘南高校サッカー部 OB会
武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

お問い合わせ・ご質問は

[ホームページアドレス]

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー部 OB会
http://www.shonan-soccer.com

[メールアドレス]

関 佳史(事務局)
seki6644@yahoo.co.jp

武藤俊一(事務局)
muto-s@jcom.home.ne.jp

横山雅行(事務局)
m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp

グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

[蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月14日(日)

場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

関東大会予選のシード権の試合が、7日(日)8日(月)開催の為、
例年より1週間繰り下がります。お間違えないよう。

09:30~10:50

11:00~12:00

12:15~12:30

12:30~13:30

13:30~15:30

現役 VS トトカルチョ

総会 幹事会はその前9:30~

現役交歓式

食事

40以上 OB紅白戦 2面使用

(着替えは清明会館和室使用)

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄ってください。

※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

